

オーガナイズドセッション

～特定課題：気候および社会条件の変化への適応と河川技術～

地球温暖化に伴う気候変化が洪水や渇水などに関わる極端現象の激化をもたらすとの懸念が指摘されています。また我が国は、今後長期にわたって人口減少や高齢化などの大きな社会条件変化のトレンドに入り、これは土地や水の利用形態などに影響しうるものです。

河川・流域の整備や管理において、こうした基本的条件の変化を考慮し、適応するために、「河川技術として本当に重要なこと、やるべきことは何なのか？」を考えます。河川・流域さらには地先ごとの複雑で多様な特徴を踏まえるという局所性の考慮を得意としてきた河川技術の特長を踏まえつつ、「今まで培われてきたどのような技術を大切にし、さらに伸ばすべきか？」「新たに開拓すべき技術は何か？」を議論します。

当セッションにおいては、気候変動と社会的状況の変化という新たなプレッシャーを受けて、河川技術が具体的に何をすべきかを議論することを主軸に、

- ・福岡捷二先生のお話からは、「より大きな洪水流量を流す河道の設計はどうあるべきか？そこにおいて、環境と治水の一体化や維持管理まで視野に入れた基本的な川づくりの方策はどういうものであるべきか？その技術論をさらに具体化する上で、検討すべきことは何か？」といった課題を、
- ・辻本哲郎先生のお話からは、「河道での治水対応の有効性と限界、それを受けての流域への展開という議論が従前からあるが、上記のプレッシャーを真正面から受け止めたとき、そうした方向性が現実に実行されるための要件、フレームや基軸、それらと河川技術との関わりは何か」といった課題を、
- ・島谷幸宏先生のお話からは、「流域治水の概念やこれまでの実績（必ずしも順調にできなかった事例も含み）を踏まえ、今日において流域治水が本当に実行されるための戦略、実行方策とは何か？そこにおける河川技術の新たな役割とは？」といった課題を

引き出し、議論を深めていくことを考えています。こうした議論を踏まえ、河道一河道と氾濫原一流域という横串で、河川技術に求められるものを具体的に認識するようなセッションになることを期待しているところです。気候変動という予測の話がしばしば主役になりますが、今回は相当な影響が出ること前提に、では実物を扱っている河川技術者が何をすべきかに議論の焦点を当てたいと考えています。

オーガナイザー：藤田光一、泉典洋

日 時：2010年6月3日（木） 14：15～17：15

プログラム：

- ・趣旨説明
- ・治水と環境の調和した治水適応策としての河幅、断面形の検討方法
中央大学理工学部、研究開発機構 福岡 捷二
- ・気候・社会条件変化への対応を含む流域統合目標の達成に向けた河川整備手法について
名古屋大学大学院工学研究科 辻本 哲郎
- ・治水・環境のための流域治水をいかに進めるか？
九州大学工学研究院 島谷 幸宏
- ・オーガナイズドセッション全体討議

以上